

## 平成30年度 自己評価及び学校関係者評価書(案)

平成31年2月27日  
江別市立豊幌小学校

### 1 本年度の重点目標

『自ら考え、共に高めあいながら学びを深める子どもの育成』

### 2 自己評価結果に対する学校関係者評価

領域	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	達成状況の適切さ	改善方策の適切さ
経営方針の重点	一人一人に基礎基本の確実な定着と体力の向上を図ることができたか	B	<p>○学校は、校内研修等を計画的に行い、教職員の資質向上を図るとともに、個に応じた学習指導法の工夫・改善に努めてきました。</p> <p>教科指導については、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中の評価を工夫し、一人一人の学習状況を確認しながら、一層細やかな指導を充実させ、確かな学力(基礎基本・活用力)の向上を図る。</li> <li>・研究内容を生かして「ふだんの」授業の改善を進め、一人一人の学力の伸長を図る。</li> </ul> <p>以上のことを目標として、学校全体で研究授業により重点目標に向かい、以下の取組により授業改善を進めてきました。</p> <p>①指導課程の工夫・改善 (主體的・対話的で深い学びのための授業づくり 教師のICT機器の活用や工夫)</p> <p>②言語活動の充実(考えを書く活動 考えを伝えあう活動 考えを説明する活動)</p> <p>③学習規律や学習習慣の定着 (学習時間の机上、生活リズムチェックシート等)</p> <p>④基礎学力の向上 ・家庭学習の取組強化:かがやきタイムの活用(自主的な家庭学習の計画) ・自主的な復讐の場の設定 (類似問題、復習プリント、算数に親しむプリント) ・「とよほろ算数検定」「とよほろ計算検定」の実施</p> <p>※今年度の全国学力学習状況調査の正答率は、国語Bが「全国よりやや上回った」、国語B・算数AB問題、理科は「全国より上回った」という結果でした。国語では「書く」領域に、算数では「図形」の領域にやや弱い部分が見られますので、次年度はそこに重点的に取り組み、全国平均以上の学力をつけられるよう取組を進めてまいります。</p> <p>○体力の向上に関しては、下記の取組を実施しました。</p> <p>① 体育の授業の工夫 ② ゆたかタイムの活用 ③ 日常的に取り組める環境整備 ・体育委員会企画の100周チャレンジ、日常的に取り組める体力づくり(垂直跳び・幅跳びコーナーの設置)、全校おにごっこなど ④ 縄跳び月間の取り組み【2月の参観日公開予定】 ⑤ 道教委主催の「どさん子元気アップチャレンジ」への参加 ⑥ 外遊びの奨励・推進など ⑦ 新体力テストの実施(全学年全種目)</p> <p>1月に5年生の全国体力状況調査の結果が出てきます。他の学年の体力テストの結果とあわせて分析を行い、体力の実態を把握し、「体力向上プラン」を改善し、次年度に向け取組を進めます。本校児童の実態としては筋力があり、俊敏性も高いが、走力・瞬発力・柔軟性に欠ける傾向にあります。</p>	A	A
	道徳授業及び縦割り班活動・児童会活動等の取組を通し、児童に思いやりの心や自尊感情を育むことができたか	A	<p>○重点目標の一つである「豊かな人間性を育み、人として生きていくための力の育成」のために学校は下記のような取組を進めてきました。</p> <p>① 縦割り活動(清掃・集会等)の継続と充実 ② 道徳授業の充実(思考交流など対話的な活動・参観日での授業公開 全校道徳の実施) ③ 学級での日常の声かけ ④ 全校集会等での称賛・表彰(挨拶、読書、コンクール等) ⑤ 道徳の教科化に向けた校内研修の充実 1～6年生で縦割り班を作り、清掃活動、お楽しみ集会、縦割り班ランチ等の活動を行っています。上の学年は下の学年のお手本になろうとする姿が見られるなど、高い教育効果が得られています。また、運動会や学芸発表会では、他学年の頑張ったところ等を見つけ、手紙にすることで自己肯定感を高める取組しており、お互いを認め合うことのできる豊かな心の育成を目指した取組も教育効果をあげています。</p>	A	A
教育課程・学習	指導方法の工夫改善に取り組む、確かな学力が身につくような『わかる授業』を行うことができたか	A	<p>○本校では今年も一人一人が「わかる授業」を目指し、下記のような指導体制・方法を工夫しながら、目的に応じ、指導を行って来ました。</p> <p>①「一斉指導」:一人の教師がクラス全員を対象に指導 ②「複数教員指導(ティームティーチング=T・T)」:複数の教師で役割分担しながらクラスを指導 ③「少人数指導」:クラスをいくつかのグループに分けて人数を少なくして指導 ④「習熟度別少人数指導」:習熟度別に少人数でグループを編成して指導(※総授業時数の3/4で実施) ⑤「個別指導」:この実態に合わせて、別室で個別に指導 上記の取組は保護者アンケート等でも、一定の評価をいただきました。 次年度も「わかる・できる・楽しい授業」をめざして、算数や体育(水泳、スキー)における習熟度別少人数指導を中心に一人一人を大切にしている取組を進めていきます。あわせて北海道教育委員会や江別市教育委員会の事業(指導方法工夫改善のための教員配置、授業サポート教員配置、出前事業等)も積極的に活用していきます。</p>	A	A

指導	地域の特色を生かした教育活動は豊かな心を育むのに有効であったか	A ○学校では、本校の特色である農業・食育体験や福祉体験等の「体験活動を重視した教育」、専門的な知識や技能をもった地域や外部の方を講師に招いて授業をする「出前授業」や育成会と連携した文化的行事(芸術鑑賞会)を実施し、子どもたちの心に残り、豊かな人間性に結びつく取組を進めてきました。 特に、総合的な学習では今年も3年生～小麦、4年生～大豆、5年生～米、6年生～じゃがいもの栽培学習を地域の農家の方々のご協力をいただきながら実施し、貴重な体験をさせていただいております。 今後も自然豊かな豊幌の良さを最大限生かし、地域への感謝の気持ちを忘れず、教育活動を進めて参ります。	A	A
生徒指導	関係機関と連携を図りながら、全職員で子どもたちを育てる校内体制づくりを進めることで、子どもたちは喜んで登校することができたか	A ○学校は、個に応じた指導を充実させるために、職員の共通理解を図りながら組織的に対応できる校内体制づくりに努めてまいりました。例えば、 ①心の教室相談員:児童の悩み相談、教師へのアドバイス ②パートナーティチャー事業:他機関より、専門家が来校し、WISC検査の実施や指導法のアドバイスをを行う ③英語のALT(アシスタント・ランゲージ・ティーチャー) ④学習サポート講師(教員免許所有者) ⑤特別支援教育補助員(個別児童への支援) 専門的知識を有した教員が特別支援教育コーディネーターをしています。担任の相談にのったり、関係機関との連携もスムーズに進めております。 自己肯定感を高められるような指導・支援に努め、素直な豊幌の子どもよさを生かしつつ全ての児童が喜んで登校していると実感できる学校をめざしていきます。	A	A
学校と保護者の連携	家庭や地域との連携(情報発信・交流)に努め、基本的な学習・生活習慣(家庭学習の習慣化や早寝、早起き、朝ごはん)の確立や安全・安心のための取組は進められているか	A ○信頼される学校を目指し、学校便り・学年便りの発行、HPの定期的な更新を行い、情報発信・相互交流に努めています。今後も参観懇談、家庭訪問、個人懇談(長期休業前)を計画的に実施し、家庭と連携を図りながら、家庭学習の習慣化、早寝・早起き・朝ごはん等の生活の基本習慣の確立を目指し、取組を進めていきます。	A	A

**【評価項目の設定、達成状況及び改善の方策に関する学校関係者評価委員の意見】**

- ・いろいろな取組をしていただき感謝しております。これからも地域が学校を中心に盛り上がりいけるよう協力したいと思います。
- ・子ども達の勉強見学に今年は1回だけ参加できましたが、来年は少しでも多く参加して先生方の努力を見たいと思っています。
- ・子ども達の学力向上、体力向上のために学校(先生方)が一生懸命に取り組んでいる姿が窺えます。また、地域の特色を生かした教育活動は、豊幌だからこそできる取組だと思います。豊幌の子ども達は素直です。そんな子ども達にとって楽しく過ごせる、楽しく学べる学校であってくれればと思います。

**【評点】** A:よい B:おおむねよい C:ややよくない D:よくない